第一章　大字船津（ふなつ）

船津は、神岡町の中心地である。高原川の左岸にあり山田川や吉田川（昭和三十九年頃の国鉄神岡線の敷設工事によって、八幡表の渓谷が埋め立てられる）と共に、三つの川が土砂礫岩を運んで中州をつくって開けた所である。

船津の地名は、高原川を挟んで川向こうの東町へ渡るため、一そうの渡し舟があった處から「舟處」となったといわれる。「舟處」が後になって「舟登」になった。ちなみに「登」は「乗る」という意味である。次いで「登」が「渡」にかわって「舟渡」になった。「渡」とは「舟に乗る」という意味である。

「舟渡」が「舟津」とかわったのは、金森家が山形県の上山市へ転封した元禄五年（一六九二）の頃だろうといわれ、元禄七年（一六九四）の検地帳では、「舟津町村」と書かれている。ちなみに「津」とは、「浅瀬の舟着き場」という意味である。

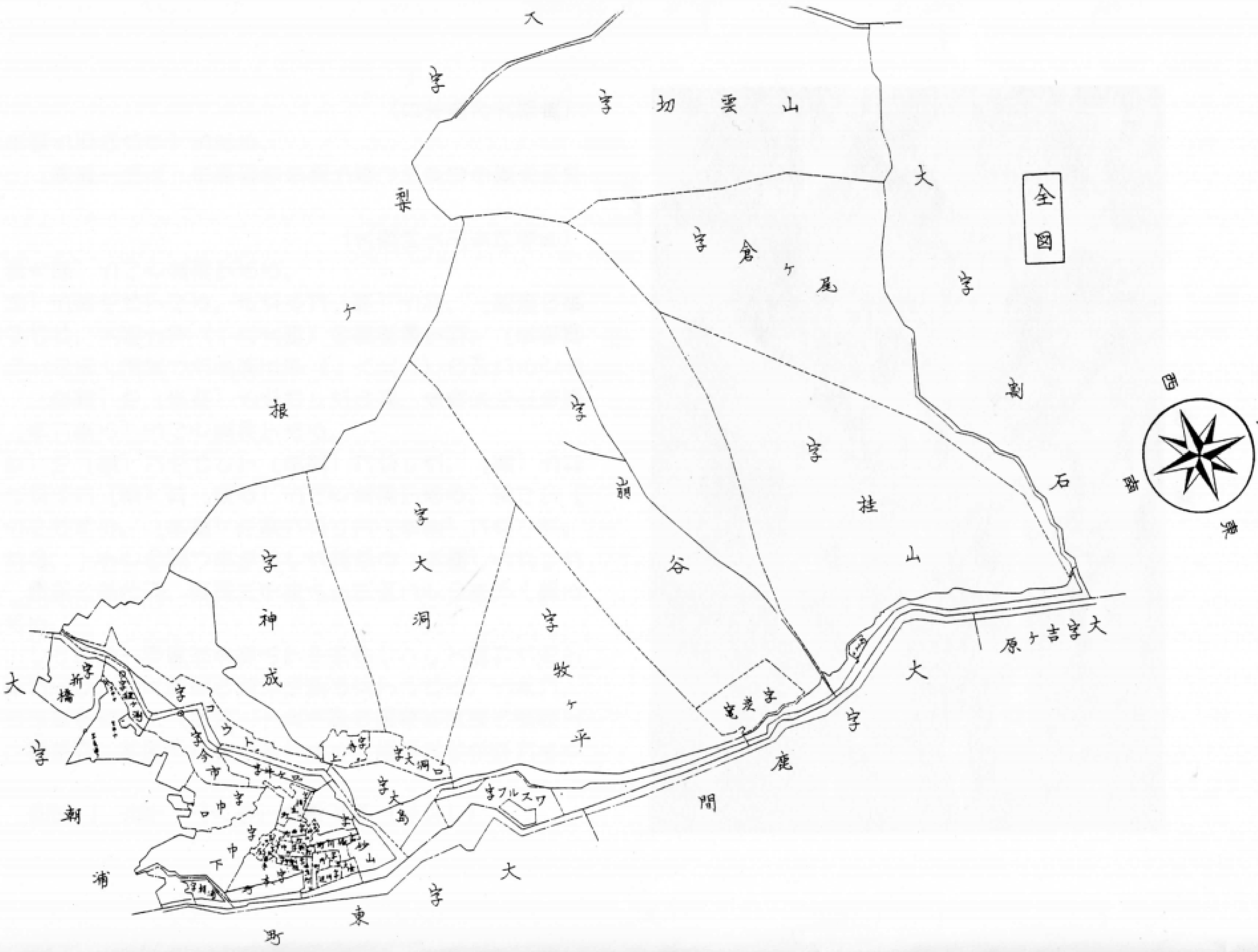
（大庭利夫氏資料参考）

「後風土記云　舟津は昔舟渡と称したりしを寛永四年舟津と改めたり」とある。

（日本地名大辞典）

船津全景

全図


大字梨ヶ根
字切雲山
大字割石
字倉ヶ尾
字桂山
字崩谷
字牧ヶ平
字大洞
字神成
字宅老
大字吉ヶ原
大字鹿間
字フルスワ
字大島
字大洞口
字今市
字コウト
字中口
字下中
字本村
字折橋
大字潮浦
大字東町
北
西
南
東